

発言

袋ケース

無電柱化

我が輩は猫になる

(大田区 マアちゃん) 犬

〈投稿募集〉◆発言(350字程度)◆ミラー(約600字)◆私の一枚(テーマなし、撮影時の説明を記入)◆写心(テーマ写真)◆乗描き(子どもの絵)◆笑ケース◆時事川柳(はがき1枚に5句まで)◆漫画イラスト(はがき大)

住所・名前・年齢・職業・電話番号を明記。〒100 8525 東京新聞編集局「発言」係。ファクス=03(3595)6934。本紙ホームページからも送信可能。趣旨を損なわない範囲で添削することがあります。重投稿はご遠慮ください。掲載分には薄謝を呈し、本紙電子メディアや友好紙に掲載することがあります。敬称は略させていただきます。



本紙記者がツイッターでつぶやいています

東京新聞編集局
東京新聞政治部
東京新聞けいざいデスク
東京新聞写真部
東京新聞鉄道クラブ
東京新聞文化部
ちゅん太(東京新聞生活部)
東京新聞外報部
東京エンタメ(放送芸能部)
チョウカンヌ(次世代研究所)
ほっとなび(東京情報)
親子で学ぶ
東京新聞校閲部

原発いららない 今こそ第一歩

NPO法人役員

萩原 一夫 69
(横浜市泉区)

東芝は福島第一原発事故を機に世界の原発事業の流れが変わったのに、経営陣は環境の変化に目をこらさず、中核事業として積極姿勢を取り続け、米国の原子力会社の損失計上から会社存亡の危機にまで至った。世界の潮流を見誤ったといえるのではないか。

一月二十八日一面で、元東芝社員で現在半導体の研究を続ける教授が「大震災

を機に原発事業から手を引くべきだった。なぜ意固地になって続けているのか理解できない」と述べたが、まさにその通りだと思う。この東芝の損失計上は、現政権の原発再稼働政策に

再考を求めものとなるのではないか。第二の福島事故が起きた場合、国家存亡の危機に陥ると思う。世界の潮流に逆らうことなく、与野党一致して「原発ゼロ」へ踏み出すことが必要だ。

有名人の死に 人生を教わる

団体職員 谷口 歩 46

(鹿児島県出水市)
一九八〇年代のシルクロードには、政情が不安定な

国や地域が少なくなかった。脚本家の向田邦子さんは、渡航許可が下りなかつたため目的地を台湾に変えたが、飛行機が墜落し、二度と帰らなかつた。中東が平和だったらと思う。同じころ、冒険家の植村

直己さんは、南極大陸を犬ぞりで単独横断するため、アルゼンチン基地からのサポートを受けようと奔走していた。しかしフォークランド紛争が勃発し、水泡に帰した。数年後、極地訓練の一環として挑んだ厳冬の北米デナリ(旧称マッキンリー)頂上事前の雪洞に「絶対登るぞ」と書いたノートを残して山にのまれた。紛争が憎い。二人から、人の生死は目には見えない振り子によって左右されることもあると教わった。

誤訳は罪作り 適性試験必要

自由業 山中 撰子 75
(横浜市瀬谷区)

今から二十数年前にある新聞で、法廷通訳人の法律知識が足りなくて困っているという内容の記事を読んだ覚えがある。そして一月

二十日付社説に「法廷通訳誤訳で判断はできぬ」との見出しを目にした。法廷通訳人の大任は、正しい言葉で通訳をすることである。正しい法律知識および被告の母国語、裁判所側の言葉に精通することが必要だ。被告人の出身国の生活習慣や文化を知ることが求められる人が求められる。

そのような人材を選ぶには、ネーティブ・スピーカーによる口述試験や一般常識に加え、被告人の出身国に関する文化や生活習慣等の知識に関する筆記試験が必要だと思つた。

誤訳は罪である。国際化時代に合った資格制度を、一刻も早く取り入れるべきである。